



1935 (S10)	飯能町で舗装工事(現飯能下名栗線、役場前～銀行 320m) (S8) 正丸峠が開通 (S12)、吾野～秩父のバス運行開始 高麗川橋 (現飯能寄居線日高市北平沢) が RC 橋に架替 (S14) 建武橋 (現 463 号西武池袋線陸橋、入間市藤沢) が完成 (S14)	八高線が全線開業 (S9) 越生鉄道 (坂戸～越生) 開業 (S9) 鎌北湖 (農業用溜池) が完成 (S10) 日中戦争が始まる (S12) 入間川の笹井堰が完成 (S13)
1940 (S15)	霞橋 (現国道 299 号入間市河原町) が RC 橋に架替 (S16) ～戦時中は一部を除き工事が停滞した～	川越線 (大宮～高麗川) 開業 (S15) 宮沢湖 (農業用溜池) が完成 (S16) 太平洋戦争が始まる (S16)
1945 (S20)	不老川の改修工事 (S24～26)	終戦 (S20.8) 八高線列車転覆事故 (S22.2) 日高市上鹿山 死者 163 人 カスリーン台風 (S22.9) 浸水、橋の流失など被害多数
1950 (S25)	龍ヶ谷川、麦原川 (越生町) の砂防工事に着手 (S25、26) 豊岡所沢線 (現国道 463 号入間市) で日米行政協定に基づき本舗装工事 (S28) 天神橋 (現川越日高線日高市、巾着田) の架替工事が完成 (S29)	飯能市市制施行 (S29.1) 国が第 1 次道路整備五箇年計画 (S29)
1955 (S30)	< 県内国県道舗装率 11.1% > 入間川源流部の湯の沢、山中沢等の砂防工事に着手 (S30、31) 高麗川源流部のタツマ沢等の砂防工事に着手 (S30) 要害沢、唐沢 (飯能市阿須) の砂防工事に着手 (S31) 高橋 (飯能寄居線越生町、越辺川) の架替工事が完成 (S32) 鹿台橋 (現川越日高線、巾着田) の架替工事が完成 (S34)	年間交通事故死者数(全国) 6,379 人 箕和田湖が完成 (農業用溜池) (S31) 昭和の市町村合併 伊勢湾台風 (S34.9)
1960 (S35)	< 国県道舗装率 15.8% > 現国道 299 号 (狭山市根岸～飯能) の新設道路が完成 (S37.7) 毛呂川改修工事 (最下流部) が完成 (S36～37) 八瀬橋 (二本木飯能線入間市寺竹、霞川) 架替工事が完成 (S37) なかよし歩道橋 (入間市豊岡小学校前) 完成 (S38.3) S61 撤去 登戸橋 (飯能寄居線毛呂山・越生町) 架替工事が完成 (S38.3) 高麗橋 (現国道 299 号日高市久保) の架替工事が完成 (S38.7) 加治橋 (二本木飯能線飯能市)、被災による架替が完成 (S38.11) 前堀川 (入間市仏子) の砂防工事に着手 (S38) 東橋 (青梅入間線入間市小谷田、霞川) の架替工事が完成 (S39.7)	年間交通事故死者数 12,484 人 首都高速道路が部分開通 (S37.12) 阪神高速道路が部分開通 (S38.7) 東京五輪 (S39.10)
1964 (S39)	飯能土木事務所が開所 (11 月 1 日) 入間郡を管轄する川越土木事務所から分離独立	

注 1) 完成時期などは、各「市町村史」、「埼玉県史」、「埼玉県行政史」、郷土史資料 (市町村・個人発行)、県資料 (橋梁台帳ほか) 等に拠った。

注 2) 記載したものは、資料や時間の制約から管内各地で行われた様々な事業の中の一部である。

注 3) 管内の砂防工事は、大正 5 年に設置された大柵砂防事務所 (ときがわ町) により昭和 57 年度まで行われた。(その後は飯能土木による) 県内の砂防工事は明治 43 年の土砂災害を契機としている。

